
海外のRDM支援活動事例報告

第17回 月刊JPCOAR

2023年2月15日（水）

神戸大学附属図書館電子情報グループ電子図書館担当

国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会タスクフォース

花崎 佳代子

国立大学図書館のRDM支援力強化に向けて

国立大学図書館が各大学の研究データ管理・公開に実質的に貢献

(活動中間報告会) 月刊JPCOAR 令和5年2月15日(水) 14-16時

大学のポリシー策定を支援

策定段階等に応じた課題解決を促進

①研究データポリシー策定のためのワークショップ

令和4年11月28日(月)

所属機関のポリシー策定状況や課題を共有し、少人数で意見交換・課題解決

②RDM事例共有・意見交換会

令和5年1月30日(月)

AXIES・JPCOARの「研究データ管理事例集」から具体的な実践を紹介

RDM支援業務の設計と図書館職員による実践

図書館職員のスキル向上

NII RDC/
GakuNin RDMに
ついて知識がなく、
画面を見たことも
ない職員向け

RDM支援活動の事例分析と共有

海外先進大学にインタビューし国内に共有

- ・支援チームメンバーの専門分野や経歴は?
- ・支援チームに参加する図書館職員の役割は?
- ・支援業務に必要な知識やスキルは?
どうやって身に着けた?
- ・研究者から求められているもの・ことは?

インタビュー先(一部調整中): ライデン大学、
ノルウェー北極大学、ケンブリッジ大学、ワー
ゲニンゲン大学

(京大・阪大・神大・奈女・奈教の各図書館に
よる共同翻訳「データ管理で研究者と協力する
ために: クックブック」掲載事例から選定)

RDMのための標準技術の普及 RDA編「メタデータ標準カタログ」

日本語訳12月15日(木) 公開

各学術分野ごとの、研究データ記述用標準メタ
データの解説集。理系出身図書館員等が各分野
ごとに日本語化を監修

研究データに適切な
メタデータを付して
国際流通性を高めら
れるよう、研究者へ
の助言・補助



GakuNin RDMに 触れてみる会

RDM支援業務の設計の参考の
ため、機能概要を把握

第1回 令和4年12月23日(金)
第2回 令和5年1月11日(水)

データジャーナルとはどん なものが南山さんに教えて もらう会

令和5年2月1日(水)

国立大学図書館協会 資料委員会 オープンサイエンス小委員会

(小委員会)

委員長: 永盛克也(京都大学)

京都大学
大阪大学
神戸大学

富山大学
奈良女子大学
大阪教育大学

若手職員によるタスクフォース

東京大学
名古屋大学
京都大学
神戸大学

広島大学
国立民族学博物館

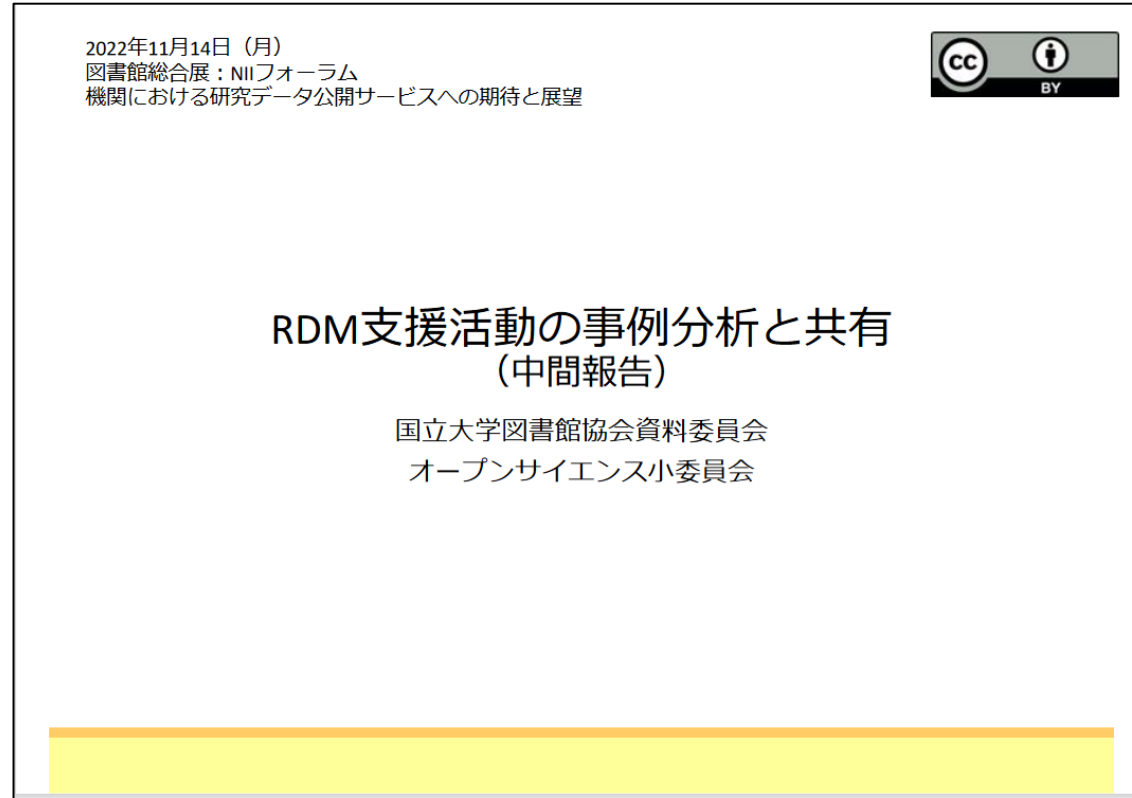
現役の理系出身図書館職員等による専門サポートグループ

北海道大学
東北大学
東京大学
東京工業大学

富山大学
名古屋大学
奈良先端科学技術大学院大学
神戸大学

広島大学
愛媛大学
国立情報学研究所

これまでの活動



- 『データ管理で研究者と協力するために：クックブック』確認
- インタビュー内容の協議
- インタビュー先機関選定
- インタビュー先機関のRDM支援体制調査
- インタビュー打診・アンケート送付
- インタビュー実施

<https://www.nii.ac.jp/event/other/libraryfair/2022/>
https://www.nii.ac.jp/event/upload/libfair2022_forum1_3_2.pdf

ライデン大学

概要

- 1575年創立 オランダ（ライデン・ハーグ）
- 教職員：7,600名、学生：34,165名
- 7つの学部 + 研究所

- Archaeology
- Governance and Global Affairs
- Humanities
- Law
- Medicine/Leiden University Medical Center
- Science
- Social and Behavioural Sciences

研究データポリシー

- Leiden University Data Management Regulation

2016年策定→2021年改訂

- 研究前：DMP記述
- 研究中：データの安全な保管
- 研究後：データを10年保存

- 詳細は学部や研究所の**データプロトコル**で定めることを記載

分野ごとに従うべき行動規範や手続き

学部や修士のプログラムでのデータ管理について

RDMの対象となるデータ

各分野ではFAIR原則はどのように適用されるのか

登録に使用すべきリポジトリ

長期保管すべきデータの判断基準

RDM支援の発展

- RDM Project (2014-2016)
ポリシー策定、アドボカシー、各部局のパイロットプログラムによる
課題の明確化、現状のサービスの評価
→ RDMの設備やツール選択が課題 → サービスカタログを公開
<https://digitalscholarship.nl/rds/>
- Implementation Programme (2017-2020)
広報、サービス提供に関する検討（コスト、人員、ワークフロー）、
インフラ整備、トレーニングの提供
→ 各学部でのデータスチュワード雇用・データプロトコルの策定

RDM支援体制

- **データマネジメントネットワーク**
学内のRDM関係者（中枢＋学部）のネットワーク。イベント等で情報や経験を共有
- 中枢部門
図書館、ICT部門
- データスチュワード（各学部1名）
各学部で雇用。部局内でのRDMに関するアドバイス、学内のRDM支援のニーズ調査や体制整備、ポリシー対応やそのモニタリングなど
- Information manager（各学部1名）
データ管理や公開に関するソフトウェアの相談窓口
- Privacy officer（各学部1名）
データ公開にかかわる、個人情報やGDPRに関する相談窓口

データスチュワード

- 求人情報の一例

<https://www.universiteitleiden.nl/en/vacancies/2022/q1/22-18311203data-steward-social-sciences>

- フルタイム、専任（1年間）
 - 社会科学分野の修士以上、データ管理の経験や知識など
 - 部局内でのRDMに関するアドバイス、学内のRDM支援体制整備、ポリシー対応やそのモニタリングなどを実施
 - 学部内のほかの研究支援スタッフや、中枢のRDM支援スタッフ（図書館やICT）、ほかのデータスチュワードと連携
- ジョブディスクリプション等の詳細は学部が決定
 - 継続的な雇用（資金確保）が課題

図書館の取組

- 6名でサービス提供（CDS = Center for Digital scholarship）
 - 以前は2名のサブジェクトライブラリアンが担当
- スタッフの方は修士号保持
- ウェビナー、研修、コミュニティへの参加、講師としての実践などを通しスキル育成
- 全学的なRDM支援体制の企画・調整、コミュニティ構築、トレーニング、リポジトリ登録支援、問合せ対応などを実施
- 機関リポジトリではなく国が運営するリポジトリへの登録を推奨。さらに適した分野別リポジトリがあれば適宜推奨。
 - 4TU.ResearchData <https://data.4tu.nl/info/en/>
 - DANS <https://dans.knaw.nl/>

研修の実施

- DMP作成ワークショップ、データFAIR化ワークショップ、分野別・テーマ別、博士課程学生向けなど

<https://www.library.universiteitleiden.nl/researchers/data-management/training-data-management>

- データスチュワードやprivacy officer、研究者等も協力
- 共有に関しては、研究中（多くの場合一定範囲での共有）と、研究後（公開もできる）を区別するようにしている
- GDPRや倫理委員会の求める条件など、センシティブな情報にも時間を割くようにしている

DMPの作成支援が研究者の興味のきっかけになることが多い

ノルウェー北極大学

概要

- 1968創立 ノルウェー（トロムソ等）
- 教職員：3,300名、学生：15,500名
- 6つの学部

- Biosciences, Fisheries and Economics
- Humanities, Social Sciences and Education
- Engineering Science and Technology
- Science and Technology
- Health Sciences
- Law

研究データポリシー

- [Principles and guidelines for management of research data at UiT](#)

2017採択→2021改正

- DMPの作成
- データの保管
- データはできるだけ公開。不可の場合もメタデータはすべて公開。

RDM支援の発展

2014	キュレーションサービス、“Working group RDM UiT”、TROLLing（言語学分野のリポジトリ）運営開始 https://dataverse.no/dataverse/trolling
2015	RDMに関する調査、報告、提言
2016	研修、“UiT Board: Commission for policy and infrastructure”、UiT Open Research Data（機関のデータリポジトリ）開発 https://dataverse.no/dataverse/uit
2017	ポリシー策定、ポータルサイト、研究中のデータ保管基盤、DataversoNO（機関横断のリポジトリ）運営開始 https://dataverse.no/
2018	博士課程学生対象のDMP義務化、DMPのテンプレート開発・研修、そのほか研修拡大
2019	DMPのガイドライン、センシティブデータ取り扱い対応、ロードマップ
2020	包括的な研究中のデータ保管基盤

RDM支援体制

全学体制

- Department of Research and Development
 - ポリシーや戦略の策定
- IT Department
 - 技術面、データアーカイブのインフラ
- UiT Library
 - サポートサービス、研修、データキュレーションなど

ミーティングを重視

短期的/長期的なゴールや、
各部署のスキル・役割の共有
が連携のカギ

学部

- データスチュワード雇用の事例も

図書館で、各学部のRDM支援
人材の実態把握やネットワー
キングを計画中

図書館の取組

- データキュレーションや研修、DMP作成支援、問合せへの対応、サービス開発等を実施
- 担当者は、research and publishing supportチームかteaching and learning supportチームのライブラリアン
- サブジェクトライブラリアンや、Open Data担当ライブラリアン等
- サブジェクトライブラリアンがデータキュレーション担当
- 研修や問合せ対応等、興味や専門に応じて柔軟に分担
- 自身の研究の経験も生かせるほか、セミナー、ワークショップ、会議への参加や、経験者とともに実際に業務をすることでスキル育成

<https://en.uit.no/ub/about/organization>

DataverseNO

- UiTが運営。TROLLingやUiT Open Research Dataもサブコレクションのひとつ
- ノルウェー国内の機関がサブコレクションを構築でき、各機関のサブジェクトライブラリアンがデータキュレーションを実施
- キュレーターはDataverseNOの／国外のDataverseの管理者のネットワークに参加可
- CoreTrustSealの認証を取得（2020.3）

<https://dataverse.no/>

研修・アドボカシー

- 研修の内容
 - テーマ別研修（例：概要、組織化・文書化、保管、共有、検索・引用、契約、権利、DMP、センシティブ情報）
 - 博士課程学生向けの全学的教育プログラムの一部としてRDMの講座を実施
- 他キャンパスでの**オープンサイエンスツアー**
 - 部局長やプロジェクトリーダー・図書館員とのミーティング
 - 研究者や学生向けのレクチャー
- RDMのセミナー講師はセメスターに一度集まり評価を実施。研修の実施は二人一組で行い（初心者は補助者として参加）お互いに評価

参考文献

- Verhaar, P., Schoots, F., Sesink, L., & Frederiks, F. (2017). Fostering effective data management practices at Leiden University. LIBER Quarterly: The Journal of the Association of European Research Libraries, 27(1), 1–22.
<https://doi.org/10.18352/lq.10185>
- Verhaar, P., Schoots, F., Sesink, L., & Frederiks, F.(2017). Implementing a Research Data Policy at Leiden University. IJDC, 12(2), 1-10
<https://doi.org/10.2218/ijdc.v12i2.575>
- Laurents Sesink. (2017). Championing Open Science at Leiden University.
[http://beopen.uns.ac.rs/documents/54a5b27629179d9220909f6b6b09807f/Presentations_.Laurents%20Sesink%20\(Championing%20Open%20Science\).pdf](http://beopen.uns.ac.rs/documents/54a5b27629179d9220909f6b6b09807f/Presentations_.Laurents%20Sesink%20(Championing%20Open%20Science).pdf)

参考文献

- Helene N. Andreassen, Philipp Konzett, Stein Høydalsvik, Leif Longva, Obiajulu Odu. (2015). UiT Open Research Data. https://www.ntnu.no/ub/emtacl/15/presentations/Emtacl15_UiT_Open_Research_Data.pdf
- Helene N. Andreassen, Philipp Konzett, Stein Høydalsvik, Leif Longva, Obiajulu Odu. (2016). Open Research Data and our experiences using Dataverse. <https://munin.uit.no/handle/10037/10426>
- Helene N. Andreassen, Randi Østhus. (2019). "We can work it out!" Collaborating on Research Data Management Services at UiT The Arctic University of Norway. <https://hdl.handle.net/10037/15984>
- Phillip Konzett. (2020). DataverseNO : A national repository for research data from Norway. https://forumgdi.rcaap.pt/wp-content/uploads/2020/11/PhilippKonzett_DataverseNO_7th_Portuguese_RDM_Forum_2020.pdf